

Ⅱ. 後期基本計画

施策42 教育の内容と支援の充実

施策の目指す姿

個に応じたきめ細やかな教育活動の推進により、児童生徒は生き生きと学校生活を送り、生きる力が育成されています。

施策の現状

次代を担う子供たちに生きる力を育むために、学習指導要領及び狭山市教育振興基本計画に基づき、知・徳・体のバランスのとれた力を養う教育を推進するとともに、各学校の実態を踏まえて、特色ある教育活動に取り組んでいます。

情報化や国際化の進展に対応して、プログラミング教育をはじめとするICT^{*1}に関する理解や活用能力を高める教育を推進するとともに、小学校からの英語教育に早くから取り組み、英語によるコミュニケーション能力の素地を養っています。

また、多文化共生の視点から、国際理解教育への取り組みや日本語指導が必要な外国人児童生徒等への支援を行っています。

狭山市いじめの防止等のための基本的な方針に基づき、いじめ防止対策を推進したり、様々な相談体制や関係機関と連携して不登校防止対策を推進したりして、教職員は子供たちと向き合い、生徒指導の充実を図り、生命を尊重し、規律正しく、心豊かな児童生徒を育成しています。

特別な教育的支援が必要な児童生徒に対して、特別支援学級や通級指導教室において、個に応じた適切な指導を行っています。

市立幼稚園では、家庭と連携して、生きる力の基礎を育む教育を推進しています。

幼稚園・保育所（園）から小学校、小学校から中学校への円滑な接続を進めるため、関係する幼稚園及び保育所（園）と小学校との間で交流を行うとともに、関係する小学校と中学校との間で、教育課程をはじめとして様々な分野で連携を推進しています。

教職員の資質の向上のため、各種研修を計画的に実施するとともに、教育委員会からの研究委嘱などを通じて、指導方法などに関する研鑽を深めています。

各種の支援員や相談員を配置し、教職員と連携して、学習指導の支援のほか、様々な相談にあたっています。また、教職員とともに、部活動支援員や地域の協力のもと、児童生徒の文化・スポーツ等の校外活動が活発に行われています。

特別な教育的支援が必要な幼児や児童生徒が、適切に就学できるように、専門家による巡回相談や就学支援委員などによる支援を行っています。

経済的な支援が必要な家庭に対して、就学援助金の交付や奨学金の貸付などにより就学を支援して

います。

PDC Aマネジメントサイクル^{*2}に基づき、学校運営について、各学校が自己評価するとともに、学校関係者による外部評価を行っています。

E S D^{*3}の推進を図り、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、また、そのことによって持続可能な社会づくりの担い手を育む学習を展開します。

施策の課題

- 次代を担う子供たちに生きる力を育むとともに、子供たちが生き生きと充実した学校生活を送るためには、知・徳・体の面から教育内容を充実するとともに、学習指導や生徒指導などの面から教育活動を支援していく必要があります。

主なとりくみ

(1) 教育指導の充実

- 国や県の学力調査の結果を分析し、指導方法を改善するとともに、ICTを効果的に活用して、学習指導を充実します。
- ユニバーサルデザイン^{*4}や主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりについての研鑽を深め、学習指導に活かします。
- 小・中学生学習支援事業の実施により、学力の向上に取り組めます。
- 家庭と連携し、家庭学習の励行を促進することにより、確かな学力の定着を図ります。
- 道徳教育の充実を図るとともに、道徳教育への保護者や地域からの参画推進と家庭教育への波及を図ります。
- 新体力テストの結果の分析を踏まえて、体力向上の具体的方策を研究し、指導に活かします。
- プログラミング教育をはじめとするICTに関する理解や活用能力を高める教育をより一層推進します。
- オンライン学習システムの活用により、児童生徒一人一人に応じた学習支援を行い、学力と学習習慣の定着を図ります。
- 市と各学校で定めた、いじめの防止などのための基本方針に基づき、いじめのない学校づくりにより一層取り組みます。また、不登校や非行・問題行動などの防止にもより一層取り組みます。
- インターネットなどを通じて、児童生徒が事件や事故に巻き込まれないように、家庭と連携して、情報モラルを徹底します。

※1 ICTとは

Information and Communication Technology の略で、情報処理及び情報通信に関する技術の総称のこと。従来から使われているIT (Information Technology) に代わる言葉として使われているもの。

※2 PDCAマネジメントサイクルとは

Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Act (改善) のサイクルを繰り返し行うことで、継続的な業務の改善を促す手法のこと。

※3 ESDとは

Education for Sustainable Development の略で、環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会における様々な問題について、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

※4 ユニバーサルデザインとは

障害の有無、年齢、性別などに関係なく、全ての人が利用しやすいようにはじめからバリアがない製品・建物・環境などを作ろうとする考え方のこと。

Ⅱ. 後期基本計画

- 小学校への英語活動支援員や語学指導助手（ALT）の配置などにより、英語教育における小中一貫性を強化し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。
- 公費による英語検定の受験を通じて、英語に対する学習意欲及び英語能力の向上を図ります。
- 日本語指導や学校生活の相談活動などを通じて、帰国・外国人児童生徒に対する支援を充実します。
- 中学校で、命の大切さを実感し、他者への思いやりや自己肯定感を高めることを目的として、いのちの授業を開催します。

(2) 特別支援教育の充実

- 特別な教育的支援が必要な児童生徒に対して、個に応じた適切な指導を行うとともに、インクルーシブ教育^{※5}の構築を目指した取り組みを充実します。

(3) 幼児教育の充実

- 様々な遊びや体験を通じて、園児に生きる力の基礎が育まれるよう、また、特別な教育的支援が必要な園児に適切な支援が行われるように、教育指導を充実します。

(4) 連携教育の推進

- 関係する幼稚園及び保育所（園）と小学校で組織する連携協議会が中心となって、幼保小連携を推進し、小1プロブレム^{※6}の解消に取り組みます。
- 関係する小学校と中学校で組織する推進協議会が中心となって、小中一貫教育を推進します。
- 公民館などの社会教育施設において、児童生徒を対象とした事業を充実するとともに、社会教育の成果を学校教育に活かすなどして、学社連携をより一層推進します。

(5) 教職員の資質の向上

- 教員に求められる授業スタイルを会得し、児童生徒の学習指導にあたることができるよう、研修や研究委嘱などを通じて、指導方法の向上に取り組みます。
- 教育内容の多様化やICTの普及に対応して、必要な環境の整備とこれらに関わる研修を計画的に実施し、時代の変化に即応できる資質を備えた教職員を養成します。

(6) 教育活動の支援の充実

- 各学校に、各種の支援員及び特別支援学級介助員や学校図書館司書を配置し、これらを有効に活用するなかで、各学校の教育活動に対する支援を充実します。
- 各中学校に相談員及び相談支援員を配置するとともに、教育センターにも教育相談員を配置するなどし、これらを有効に活用するなかで、児童生徒や保護者及び教職員からのいじめや不登校などの相談などに応じる体制を充実します。
- 児童生徒の文化・スポーツ活動の促進のため、学校または市の代表として参加した校外活動に対し交通費等を助成し、多くの大会等に参加することができるように支援します。

(7) 就学支援の充実

- 経済的な支援が必要な家庭に対して、小中学校就学援助金の交付、高等学校や大学などの修学者に対する奨学金の貸与について周知し、活用を促進します。

(8) 学校評価の充実

- PDCAマネジメントサイクルに基づき実施している、学校運営に対する自己評価及び学校関係者による外部評価を充実します。

※5 インクルーシブ教育とは

障害のある子供と障害のない子供がともに学ぶ仕組みのこと。

※6 小1プロブレムとは

小学校へ入学したばかりの1年生が、集団行動が取れない、授業中、椅子に座ってられないなど、小学校の生活になかなか馴染めない状態が数カ月継続する状態のこと。

Ⅱ. 後期基本計画

施策の成果目標

項目	実績値 令和元年度				目標値 令和7年度	
	埼玉県学力・学習状況調査の平均正答率	科目	小学校		中学校	
狭山市			埼玉県	狭山市	埼玉県	
国語		55.5	56.9	58.4	58.7	
算数		66.1	66.6	—	—	
数学		—	—	59.6	59.3	
	英語	—	—	56.6	56.1	
埼玉県学力・学習状況調査における規律ある態度の定着度	内容	項目		小学校	中学校	全項目80%以上
		けじめのある生活ができる	時刻を守る	登校時間	94.1	
	授業開始時間			95.4	97.3	
	身の回りの整理整頓をする		靴そろえ	88.1	92.5	
			整理整頓	86.6	86.9	
	礼儀正しく人と接することができる	進んであいさつや返事をする	あいさつ	77.1	81.4	
			返事	89.0	89.3	
		ていねいな言葉づかいを身につける	ていねいな言葉づかい	87.0	92.5	
			やさしい言葉づかい	84.9	88.0	
	約束やきまりを守ることができる	学習のきまりを守る	学習準備	85.1	90.0	
			話を聞き発表する	77.0	73.1	
		生活のきまりを守る	集団の場での態度	85.3	94.3	
掃除・美化活動			89.3	86.7		

第1章

第2章

第3章

第4章

教育文化
第5章第2節
学校教育の充実
第6章

第7章

Ⅱ. 後期基本計画

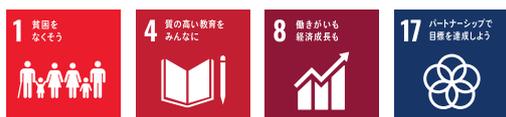
項目	実績値	目標値
	令和元年度	令和7年度
新体力テストの5段階総合評価のうち上位3ランク(A・B・C)の児童の割合	小学校 81.8% 中学校 83.9%	小学校、中学校ともに 県の目標値を上回る。
いじめの解消率及び不登校児童生徒の学校復帰率	解消率 81.8% 学校復帰率 19.7%	解消率 100% 学校復帰率 33.3%
全国学力・学習状況調査において、学校に行くのが楽しいと答えた児童生徒の割合	小学校 87.2% 中学校 82.4%	県、全国平均を 上回る。
CEFR (セファール) のA1相当レベル ^{*7} 以上の英語力をもった生徒の割合	55.0%	全国の目標値を 上回る。

市民・団体・事業者などに期待する協働による行動

- 家庭や地域で、基本的な生活習慣の体得や家庭学習の励行について指導しましょう。
- 日頃から子供に接し、子供の様子に異変を察知したら、学校に相談しましょう。
- 非常勤講師、支援員、介助員、相談員などとして、学校を支援しましょう。

関連するSDGsのゴール

- ゴール1 貧困をなくそう
- ゴール4 質の高い教育をみんなに
- ゴール8 働きがいも経済成長も
- ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう



※7 CEFR (セファール) のA1相当レベルとは

実用英語技能検定3級、TOEIC スコア320～620、GTEC スコア270～689、ケンブリッジ英語検定スコア110～119に相当する英語力のこと。

Ⅱ. 後期基本計画

第1章

第2章

第3章

第4章

教育文化
第5章

第2節
第6章

学校教育の充実
第7章



英語指導助手（ALT）による小学生への英語教育



パソコンを活用した体育の授業